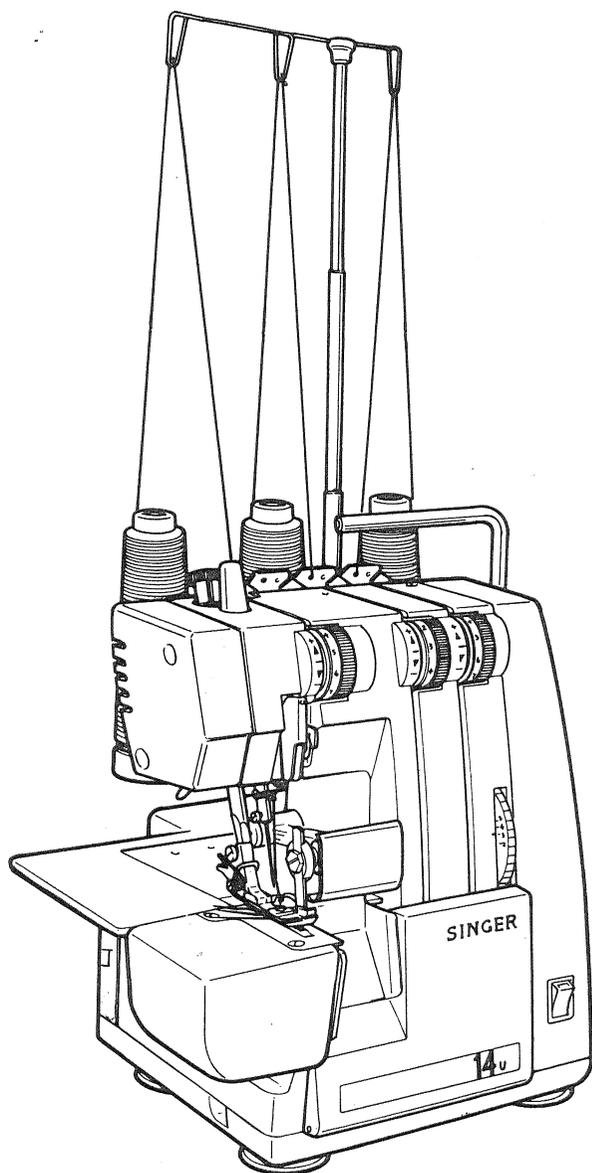


14u 3本糸

縁かがりミシン  
使用の手びき



**SINGER\***  
シンガーミシン

# PROFESSIONAL 14<sub>U</sub> 型

## 縁かがりミシンの紹介

このたび、シンガー14U型縁かがりミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。  
このミシンは、地縫いをしながら丈夫で綺麗な縁かがり縫いができ、ローン、ジョーゼット、トリコットなどの薄ものから、木綿、ジャージー、デニムなどの厚ものまで、あらゆる布地にすぐれた機能を発揮いたします。この説明書をよくお読みいただき、正しく、かつ末永くご愛用くださるよう、お願いいたします。  
尚、修理サービスにつきましては、最終ページの〔修理サービス要領〕をご参照ください。

シンガーミシンを安全にお使いいただくために次のことを  
お守りください。

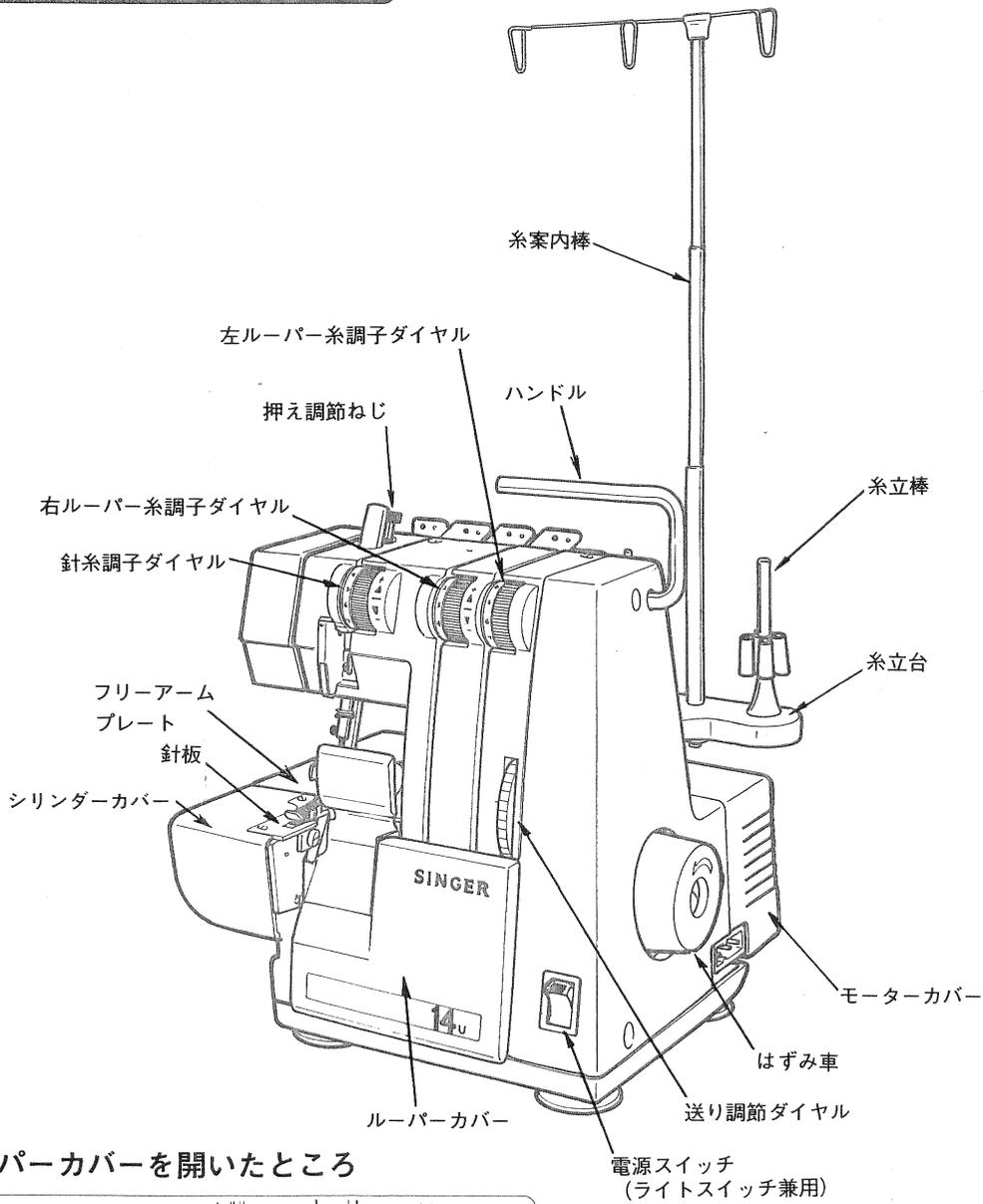
- ミシンを使用しないときは、必ず電源コードをコンセントからはずすこと。
- 附属のシンガーミシン専用コントローラーは落としたり、上に物をのせたりしないようていねいに取り扱うこと。  
座ブトンの下などにおいて使用しないこと。
- 裁縫をするときは縫う部分をよく見ながら針やメスでケガなどせぬよう注意すること。
- ミシンを移動するときは、ハンドル以外の所は持たないこと。

シンガー社は皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザイン又は付属品を変更することがあります。

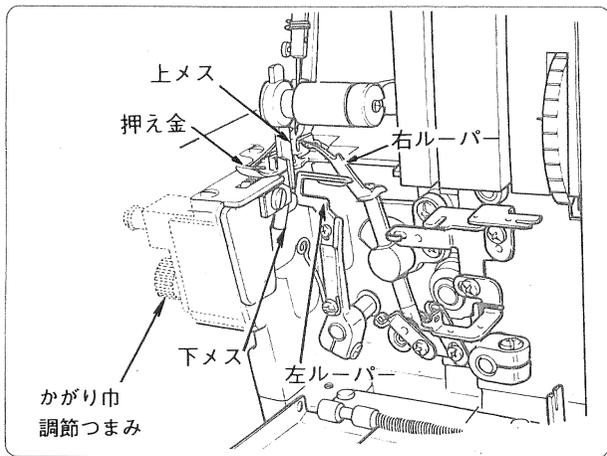
# 目 次

1. 各部のなまえ	2
2. 縫う前の準備	3
3. 糸のかけ方	4
●糸案内棒のセット	4
●ルーパーカバーの開け方	5
●シリンダーカバーのはずし方	5
●糸通し	6
●糸の交換	9
4. 糸からみの確認とためし縫い	9
5. 糸調子のとり方	10
6. 縫い目の調節	11
7. フリーアーム縫い(筒もの縫い)	12
8. 押え圧力の調節	13
9. 針のとりかえ方	13
10. かがり巾の調節	14
11. 巻きロック縫い	15
●標準巻きロック	15
●変形巻きロック	17
12. 差動送り(14U822)	18
●ギャザーロック	18
●ストレッチロック	19
●フリルロック	20
13. バリエーションステッチ	20
●まつり縫い(ブラインドステッチ)	20
●飾りステッチ	21
●ピンタック縫い	22
●ゴムシャーリング	22
●空環ブレード	22
●外角縫い	23
●内角縫い	23
14. メスの交換の仕方	24
15. 電球の取りかえ方	25
16. 注 油	25
17. 調子よく縫えない原因と調整の仕方	26
18. 布地、糸および針の関係	27
19. 付属品の明細	28
20. 14U型仕様	28
●修理サービス要領	

# 1. 各部のなまえ

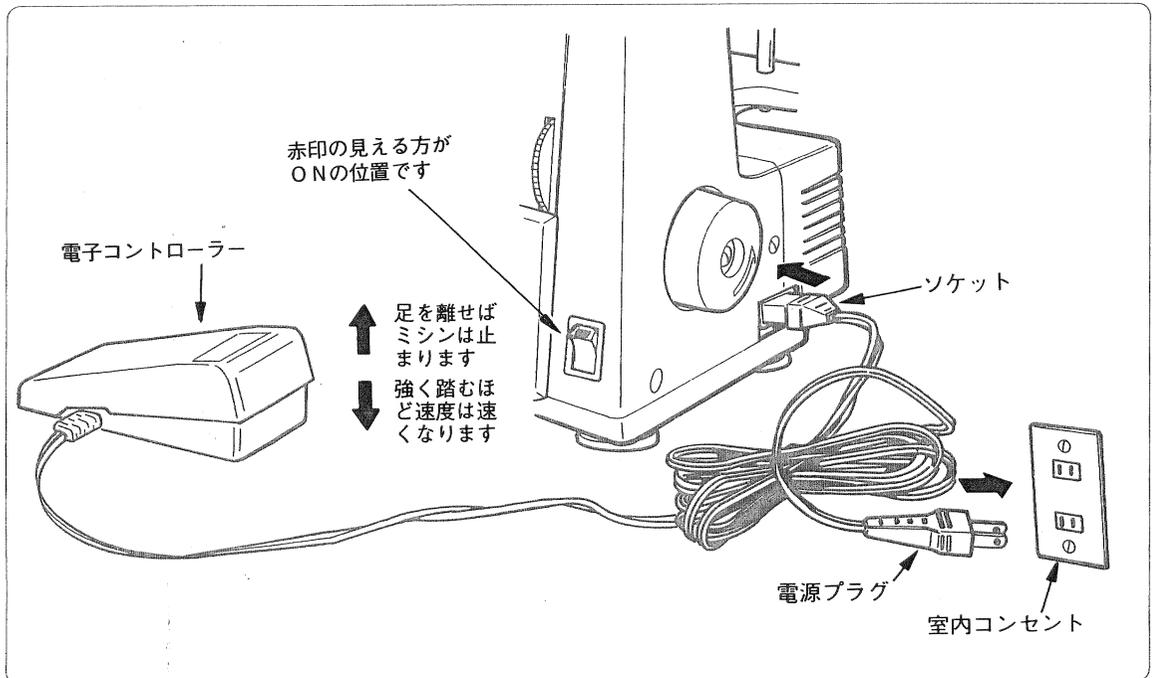


## ルーパーカバーを開いたところ



## 2. 縫う前の準備

コントローラーのソケットをミシン本体に、電源プラグを室内コンセントに差し込みます。



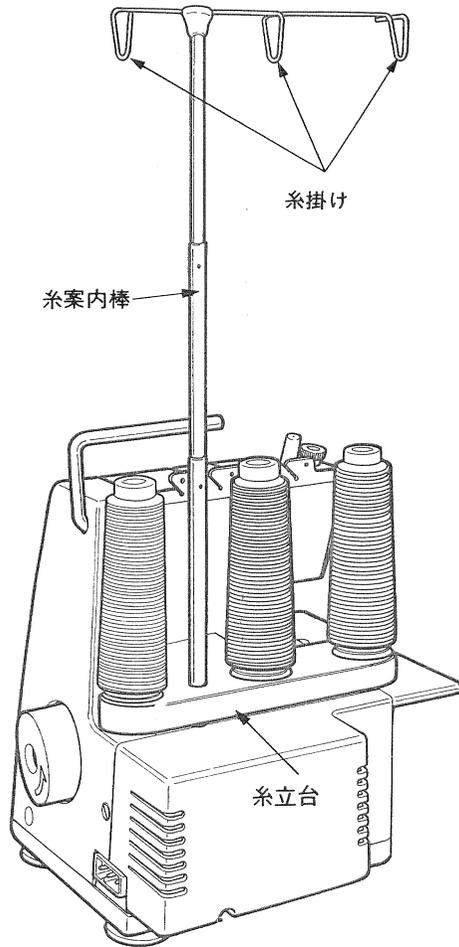
コントローラーのペダルの踏み加減で縫い速度を調節してください。ペダルから足を離せば、ミシンは止まります。

### ご使用上の注意

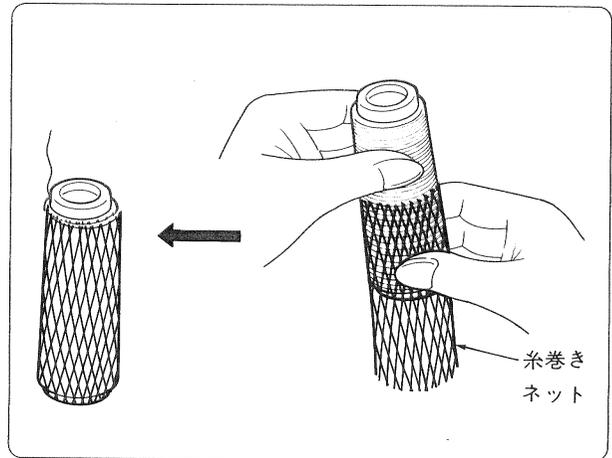
- ミシンを連続してお使いになりますと、モーターが少し暖かくなりますが、性能上は全く差しつかえありません。
- モーターの回転中、はずみ車と反対側のモーターカバーの通風孔から小さな火花が見えますが、これはモーター内のカーボンブラシと整流子との間で整流作用が行なわれているためです。安心してそのままご使用ください。
- ミシンを使用しないときは、電源プラグを室内コンセントから抜いてください。
- コントローラーの上に物をのせないでください。

### 3.糸のかけ方

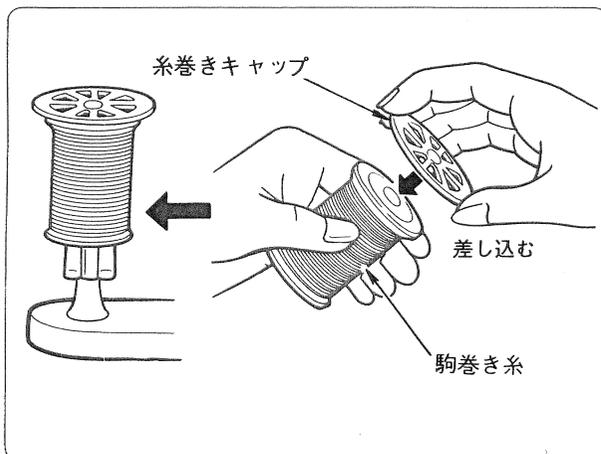
#### ●糸案内棒のセット



糸案内棒をいっぱい伸ばし、糸掛けが糸立棒の真上になるようセットします。  
尚、糸は左図のように糸立台の上に置いてください。

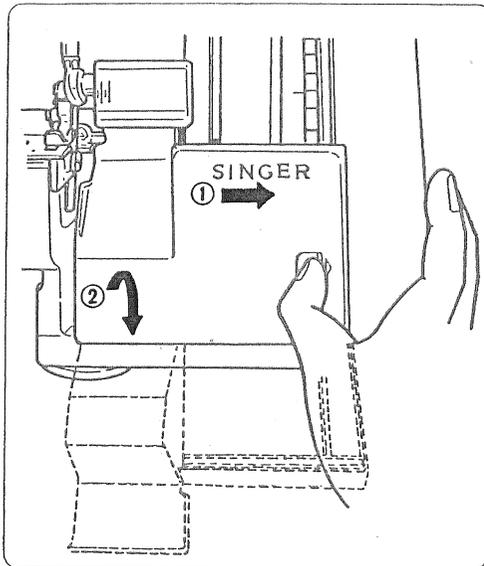


化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸巻きネットを下からセットしてご使用ください。



家庭用の駒巻き糸を使用するときは、付属の糸巻きキャップを左図のように差し込んでご使用ください。

## ●ルーパーカバーの開け方

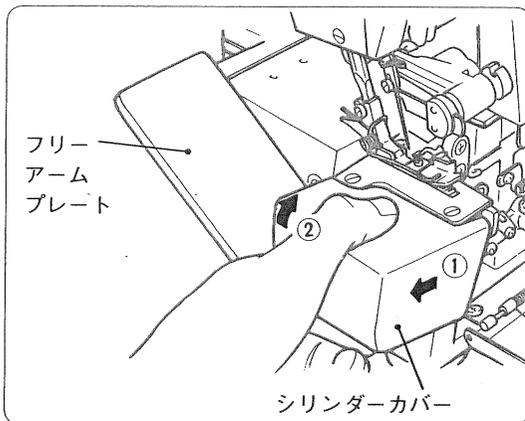


①右へいっぱい寄せて、 ②手前に倒します。

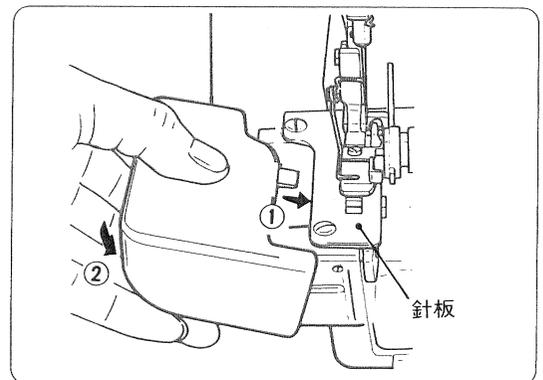
\*縫いものをするときは、必ずルーパーカバーをとじておいてください。

## ●シリンダーカバーのはずし方

取り付けるときは、



①シリンダーカバーを左へ引きながら  
②上にあげるとはずれます。



カバーの上の方を①針板の下に入れ  
②右側に押しつけるようにして  
下げてください。

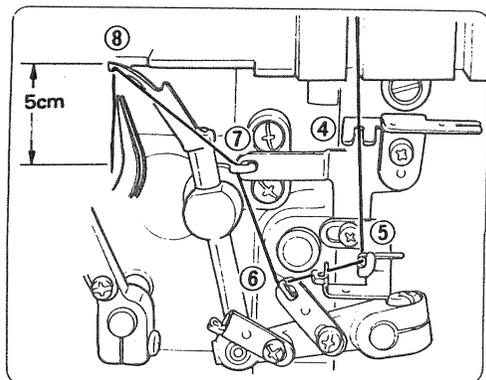
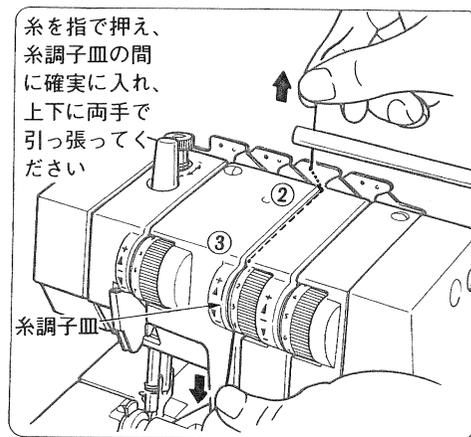
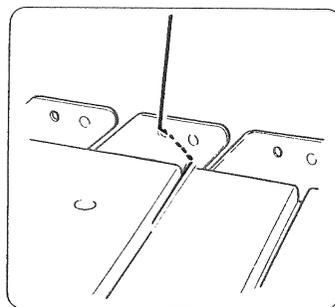
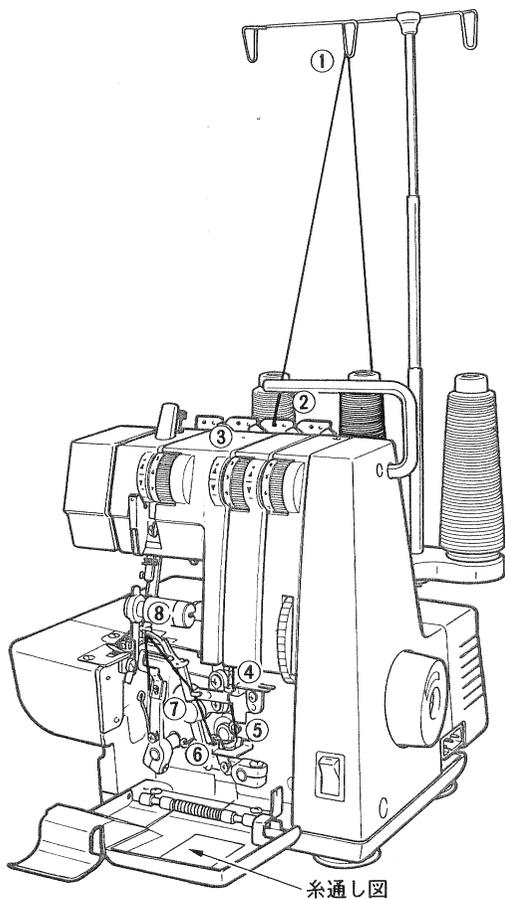
\*ミシンを移動するときは、シリンダーカバーの部分を持たないでください。

## ●糸通し

糸の通し方をまちがえますと正しく縫えません。

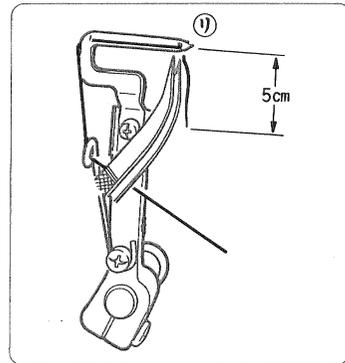
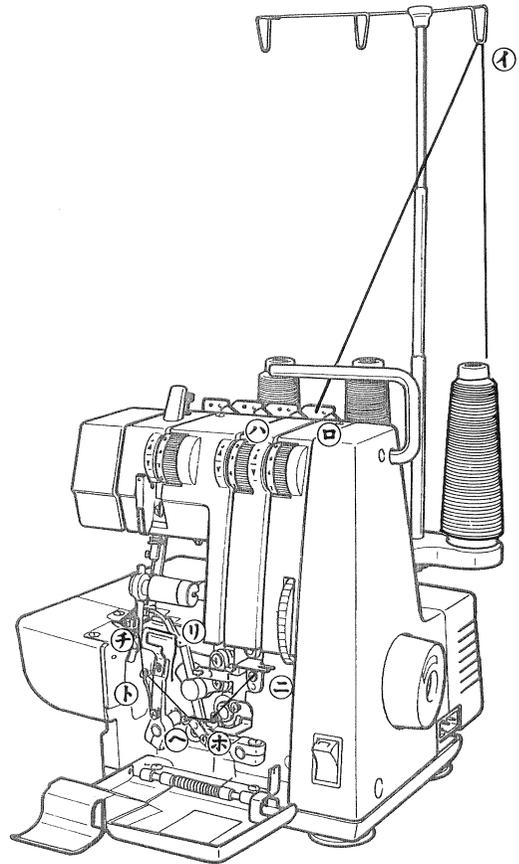
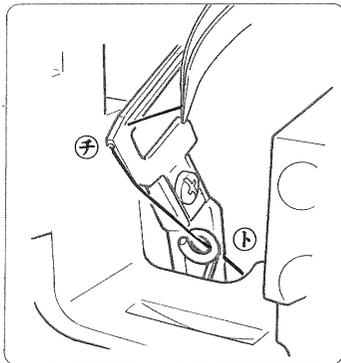
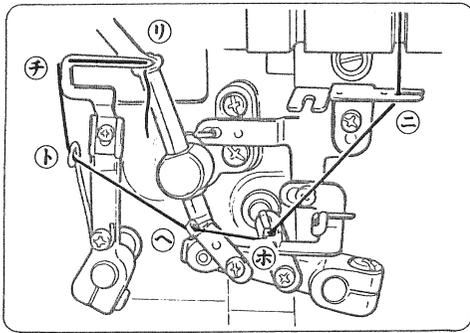
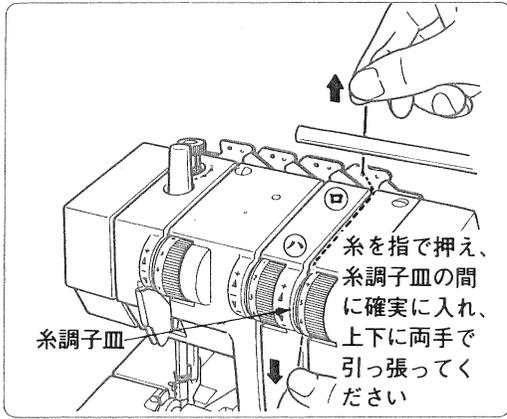
ルーパーカバーの内側に糸通し図が、また、各糸案内部に色表示がしてありますので参考にしてください。

1. 右ルーパー糸を①～⑧の番号順に通してください。(オレンジマーク)



- ルーパー糸穴⑧の糸通しは、付属のピンセットをご使用ください。
- 糸はルーパー糸穴から約5 cm 引き出してください。

2. 左ルーパー糸を④～⑪の順に通してください。(イエローマーク)  
 この時、シリンダーカバーをはずしておきます。  
 (シリンダーカバーのはずし方、5ページ参照)

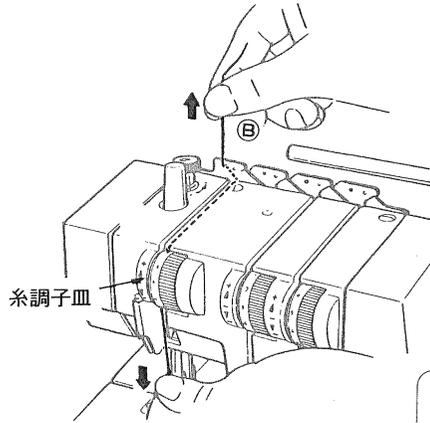
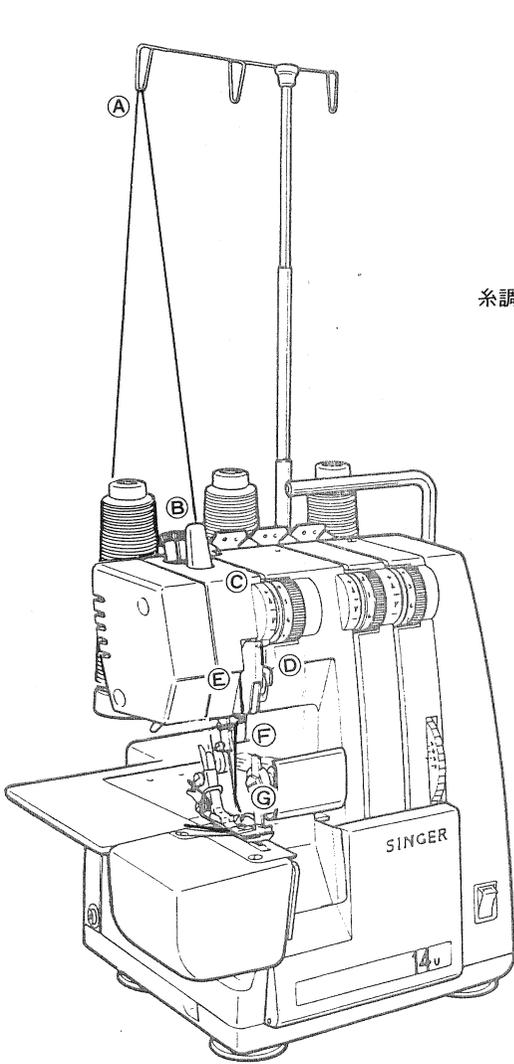


はずみ車を手前に回し、左ルーパーをいちばん左に寄せ、ルーパー糸穴④に左から糸を通します。(附属のピンセットをご使用ください)

はずみ車を手前に回し、ルーパーをいちばん右に寄せ、糸は針板をくぐらせ糸穴④に通します。(附属のピンセットをご使用ください) 糸は糸穴から約5 cm引き出してください。

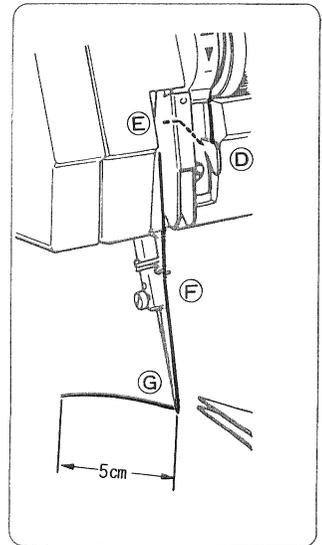
3. 針糸を①～⑦の順に通してください。(ブルーマーク)

このとき、上メスを裁断中止位置にしておきますと針穴⑦の糸通しは、通しやすくなります。  
(上メス裁断中止位置21ページ参照)



糸を指で押え、糸調子皿の間に確実に入れ、上下に両手で引っ張ってください

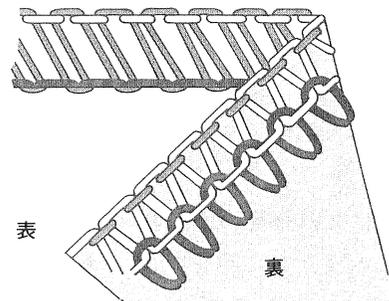
- ⑤に糸を通す時は、針棒を下げてください。
- 針穴⑦の糸通しは付属のピンセットをご使用ください。
- 糸は針穴から約5cm引き出してください。



4. 糸通しが正しくされていないと  
(特に針糸調節器に)

糸がタオル地のように浮いてしまう場合があります。これは、糸調子皿に糸が入っていないからです。

糸を指で押え、糸調子皿の間に確実に入れ上下に両手で引っ張ってください。

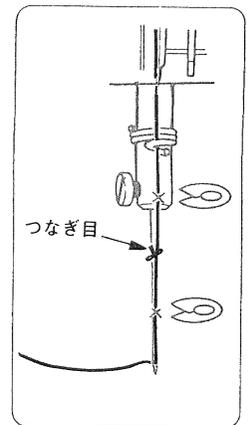
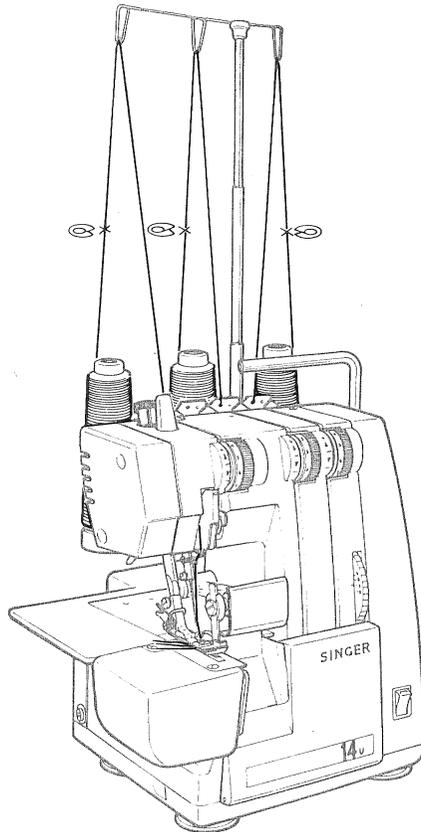


## ●糸の交換

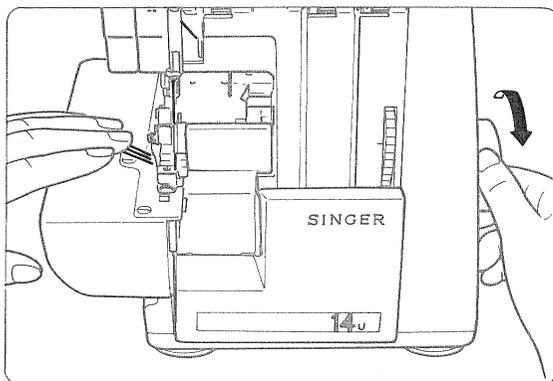
このミシンはあらかじめ糸がセットされております。

針糸、左ルーパー糸、右ルーパー糸を他の糸と交換したいときは、次のようにしていただくと便利です。

- ①右図のように糸巻き付近で糸を切り、交換したい糸につなぎ変えます。
- ②押え金を上げます。
- ③それぞれの糸調子ダイヤルを数字の小さい方（一方向）へ止まるまで回し、糸のつなぎ目が押え金より5 cm 位出るまで引き出します。ただし、針糸を引き出す時は、針を曲げないために、上図のようにつなぎ目を針穴の手前で止め、糸を切って針穴に通します。

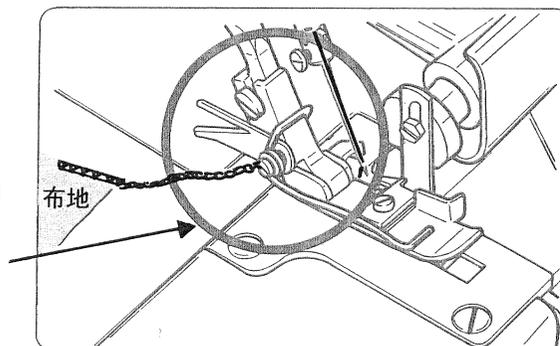
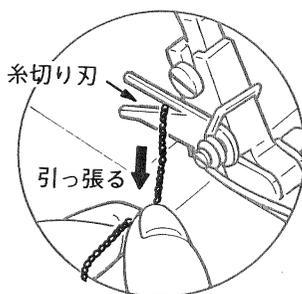


## 4. 糸からみの確認とためし縫い



糸通しが終わりましたら、左図のように3本の糸を少し張りぎみに押えながら、はずみ車を手前に2～3回まわし、糸のからみ具合を確認します。

糸からみの確認のあと、実際に用いる布地と同じものでためし縫いをして糸調子を出してから縫いますと、より美しく縫えます。



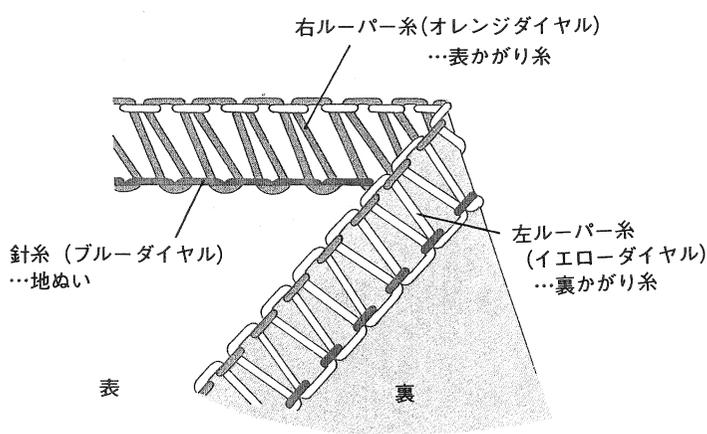
縫い終りは、左図のように布地の端から3 cm 程度長く空縫いし、押え金についている糸切り刃で切ります。

# 5. 糸調子のとり方

布地の種類や糸の太さに合せて、正しい糸調子をとってください。

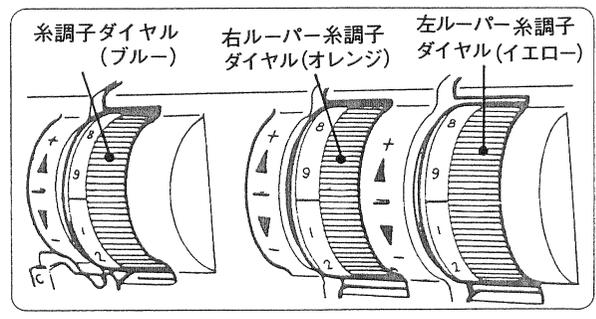
このミシンの糸調子ダイヤルは一回転式となっており、糸調子ダイヤルの数字が大きくなるほど糸調子は強くなります。

## ●正しい糸調子



正しい糸通しがされていないと糸調子が出ませんので糸通しを確認してください。  
(6 ページ参照)

糸調子ダイヤルを下記のように合せると、正しい糸調子がより簡単にとれます。

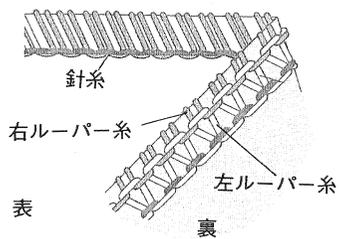


各糸調子ダイヤル共、表の目盛りを目安に合せてください。さらに、より美しい縫い目を得るために、各ダイヤルを調整してください。

布地	糸調子																										
	針糸									右ルーバー糸									左ルーバー糸								
目盛り	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
薄地		■	■	■	■					■	■	■	■						■	■	■	■					
普通地			■	■	■						■	■	■	■						■	■	■	■				
厚地				■	■	■						■	■	■							■	■	■				

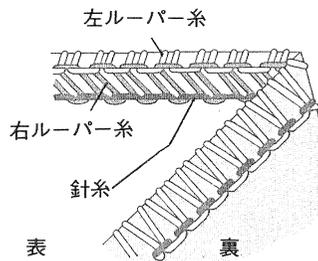
(布地は27ページ参照)

右ルーバー糸が裏へまわるとき



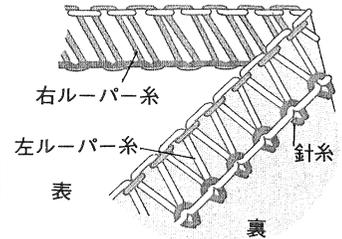
右ルーバー糸（オレンジダイヤル）を数字の大きい方（+方向）へ回す。  
 または、左ルーバー糸（イエローダイヤル）を数字の小さい方（-方向）へ回す。

左ルーバー糸が表へ出るとき



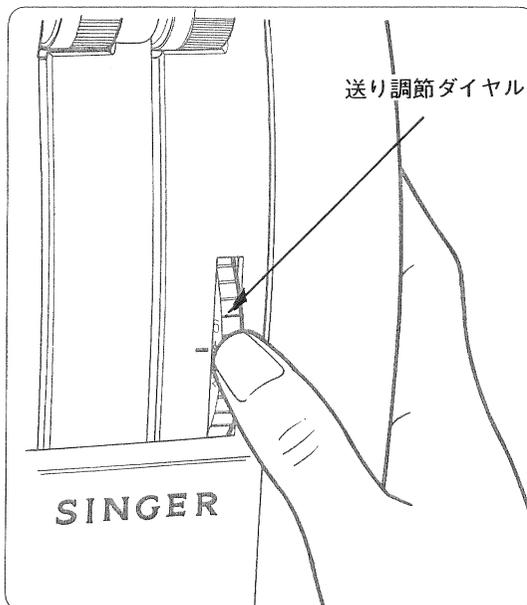
左ルーバー糸（イエローダイヤル）を数字の大きい方（+方向）へ回す。  
 または、右ルーバー糸（オレンジダイヤル）を数字の小さい方（-方向）へ回す。

針糸が弱いとき



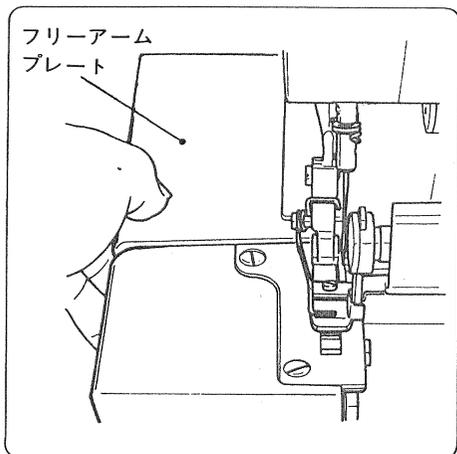
針糸（ブルーダイヤル）を数字の大きい方（+方向）へ回す。  
 または、右ルーバー糸（オレンジダイヤル）、左ルーバー糸（イエローダイヤル）を数字の小さい方（-方向）へ回す。

## 6. 縫い目の調節



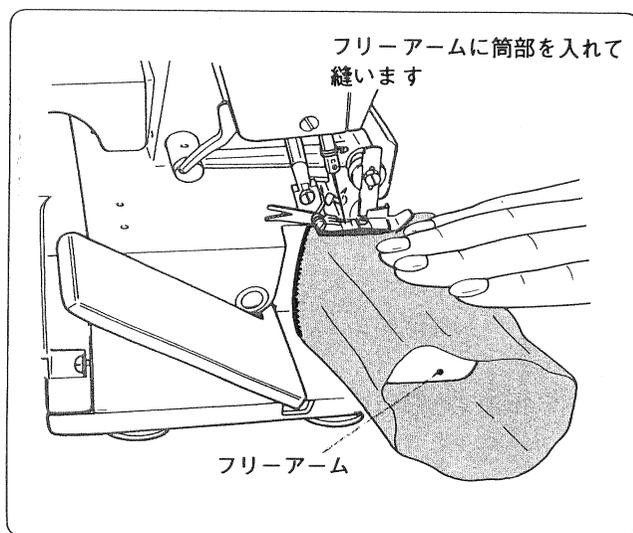
このミシンの送り調節ダイヤルは、普通に使用するときの3mmになっています。簡単に調節ができますのでキルティングなどの厚物には4mmに、また、裏地やジョーゼットのような薄地は2mmにしますと、布地にしわが寄らず綺麗に縫えます。

## 7. フリーアーム縫い (筒ものの縫い)

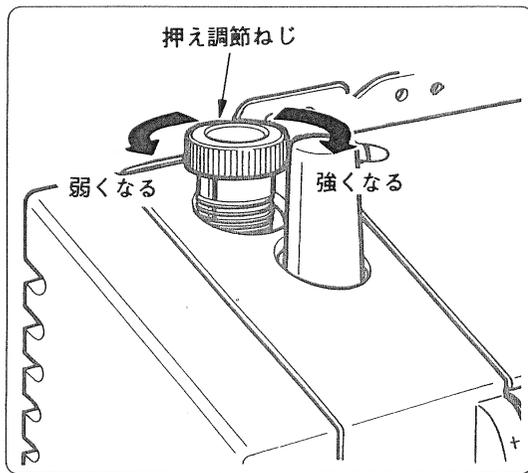


左図のように、フリーアームプレートをおしさげるだけで、このミシンはフリーアームとなり、筒ものの縫いがともしやすくなります。

特に縁かがりのしにくい袖つけの仕末や、細いズボンのすそかがりにはぴったりです。



## 8. 押え圧力の調節



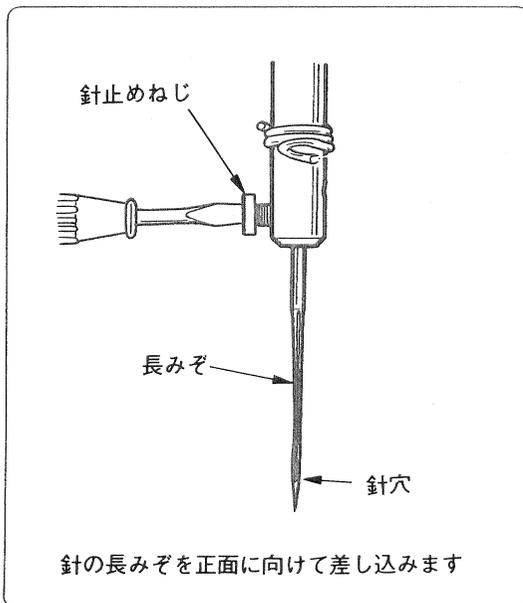
このミシンの押え圧力は、普通の布地用に調整してあります。

極薄ものや、極厚ものをお縫いになるときに、押え圧力の調節が必要な場合があります。

薄もの……押え圧力を弱くする（－方向）

厚もの……押え圧力を強くする（＋方向）

## 9. 針のとりかえ方



針は、シンガー Cat.No.2053 #10, #14をご使用下さい。この針は厚物用にすぐれた特徴をもっております。

BL×1 #11, #14も使用できます。

\*家庭用ミシン針は使用できません。

### 針の取りはずし方

- 必ず電源プラグを抜いてください。
- はずみ車を手前に回し、針をいちばん上まで上げ、針止めねじをドライバーでゆるめて、針を取りはずします。

### 針の取り付け方

- 左図のように、針の長みぞを正面に向け、針棒の穴のいちばん奥まで差し込みます。
- 針の向きが変わらないようにしっかり押え、針止めねじを確実に締めてください。

## 10. かがり巾の調節

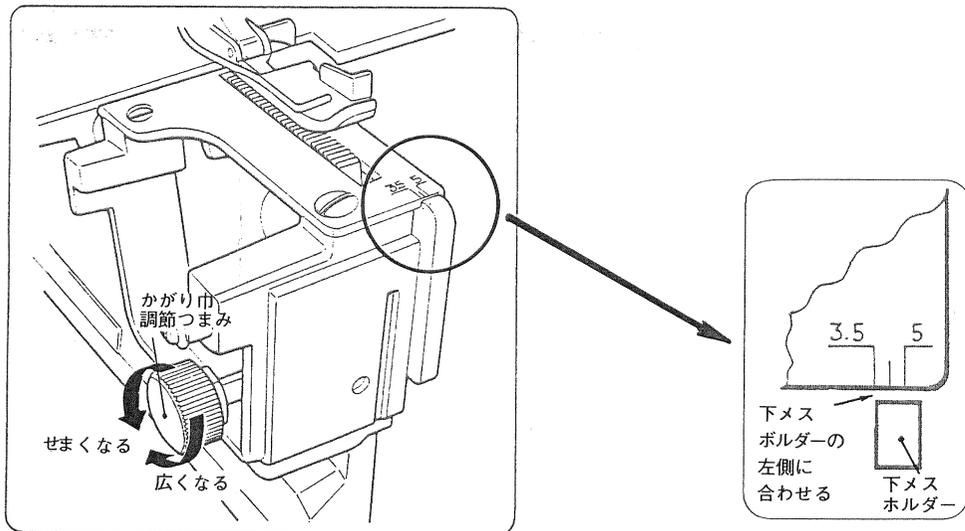
このミシンのかがり巾は、普通地向きの3.5mmになっていますが下記の要領で厚地用に5mmまで簡単に調整できます。

1. はじめに必ず電源プラグを抜いてください。
2. シリンダーカバーをはずします。(5ページ参照)
3. 上メスホルダーを押しながら、かがり巾調節つまみを矢印の方向(手前)に回しますと、かがり巾は広くなります。

かがり巾をせまくする場合はかがり巾調節つまみを矢印の方向へ回してください。(上メスホルダーを押す必要はありません)

針板の目盛りを目安に希望されるかがり巾に調節します。

4. シリンダーカバーを取り付けます。



# 11. 巻きロック縫い

## ● 標準巻きロック

自動的に布の端を巻き込みながら1.5mmの細幅でかかる縫い方で、薄地の端始末には最適です。

### 縫う前の準備

#### 1. 布地、針、糸について

布地：薄地～普通地（27ページ参照）

● 巻きロック縫いは、布地を巻きながら（かがり巾1.5mm）をするので、厚地や固い布地には適しません。

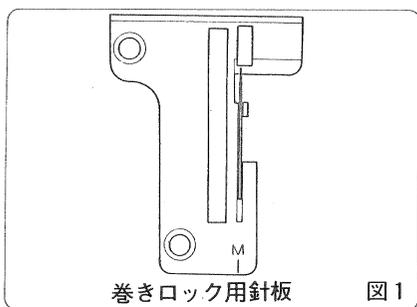
針：シンガー Cat No.2053（又はBL×1） #10、#11

糸：巻きロック縫いは色々な糸の組み合わせで使用できます。

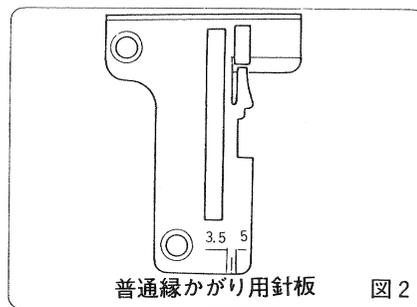
尚、針糸：テトロン糸 #80、右、左ルーパー糸：ウーリーナイロン糸をお使いいただくときれいに仕上がります。

#### 2. 針板のとりかえ方

このミシンには、付属品に**巻きロック用針板**（図1）が入っています。ミシンに付いている**普通縁かがり用針板**（図2）を下記の要領でとりかえますと、**巻きロックミシン**としてご使用いただけます。

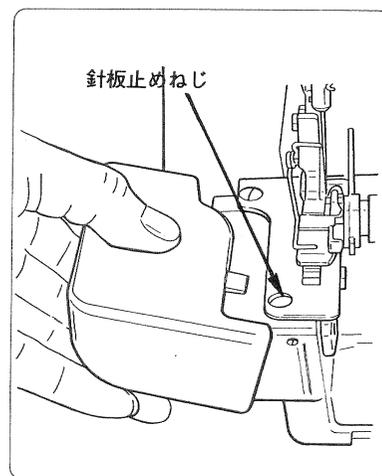


巻きロック用針板 図1



普通縁かがり用針板 図2

- 1) はじめに必ず電源プラグを抜いてください。
- 2) はずみ車を手前に回し、針を最上点にします。
- 3) 押え金を上げます。
- 4) シリンダーカバーをはずします。
- 5) 針板止めねじ（手前側1本）をはずし、針板をはずします。
- 6) 針板をとりかえ、針板止めねじ（1本）で取り付けます。
- 7) シリンダーカバーを取り付けます。



注) 針板を取り付けるとき、糸が針板とミシンの間にはさみ込まれないようご注意ください。

### 3. 糸調子のとり方

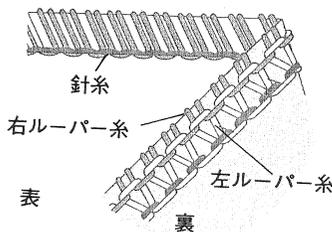
#### 標準の縫い目の場合

表の目盛りを目安に各ダイヤルを調整し、正しい糸調子をとってください。

使用の手びき

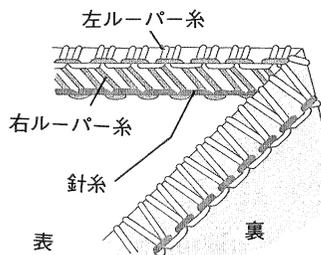
糸調子 目盛り	針 糸									右ルーパー糸									左ルーパー糸								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
縫い目																											
標準				■									■									■					
変形巻き				■									■												■		

#### ① 右ルーパー糸が裏へまわるとき



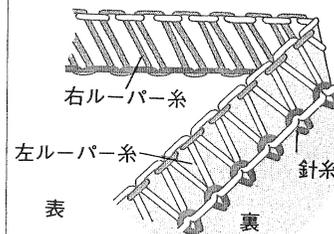
右ルーパー糸調子ダイヤル(オレンジ)を(+)方向へ回す。  
または、左ルーパー糸(イエローダイヤル)を数字の小さい方(一方向)へ回す。

#### ② 左ルーパー糸が表へ出るとき



左ルーパー糸調子ダイヤル(イエロー)を(+)方向へ回す。  
または、右ルーパー糸調子ダイヤル(オレンジ)を(-)方向へ回す。

#### ③ 針糸が弱いとき



針糸調子ダイヤル(ブルー)を(+)方向へ回す。  
または、右ルーパー糸調子ダイヤル(オレンジ)、左ルーパー糸調子ダイヤル(イエロー)を(-)方向へ回す。

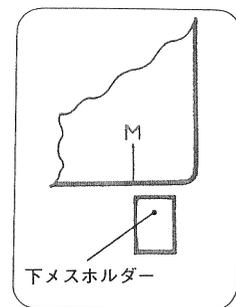
### 4. 縫い方

#### 1) 縫い目の調節 (11ページ参照)

巻きロック縫いの場合、送り調節ダイヤルを“2”または“F”マークに合せますと、美しい縫い上がりが得られます。

#### 2) 縫いについて

- 9ページの「4.糸からみの確認とためし縫い」を参照してください。
- 巻きロック縫いの場合、布を縫い方向に軽く引くようにして縫いますと、より美しく縫い上ります。
- 次の縫い始めに、空縫いの糸端が巻き込まれないよう空縫いの糸端を軽く引きながら縫ってください。
- 巻きロックのかがり巾は約1.5mmで調節はできません。この場合、布のカット巾は3.5mmですので、ご注意ください。(巻きロック用針板、Mマークに合せます。)
- テトン糸等の巻きのくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸巻きネットを下からセットして、ボビン底部の内側に折り込むようにして糸立台にセットしてください。



## ●変形巻きロック

### 右ルーパー糸を巻き込んだ縫い目（変形巻き縫い）の場合

やわらかい縫い上がりが必要なとき。薄地、普通地で巻きにくい布地の場合、この縫い方をしますと美しい縫い目が得られます。

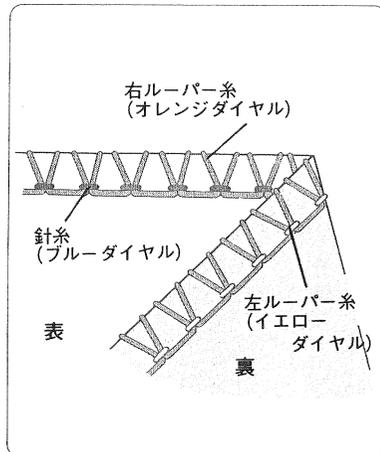
#### ・糸調子のとり方

前記「標準の縫い目の場合」、変形巻きの表を目安に各ダイヤルを調整し、正しい糸調子をとってください。

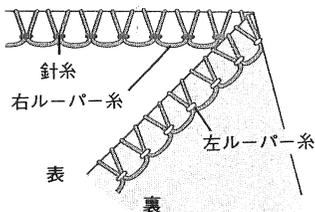
尚、標準の縫い目がでている場合その状態より、

- ①右ルーパー糸調子ダイヤル（オレンジ）を（-）方向へ半目盛り回します。
- ②左ルーパー糸調子ダイヤル（イエロー）を（+）方向へ2～3目盛り回します。

以上の操作で、巻き込んだ縫い目に近づきますが、より正しい糸調子を得るために、各糸調子ダイヤルを多少調整してください。

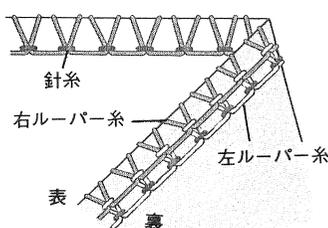


#### ① 右ルーパー糸が弱い場合



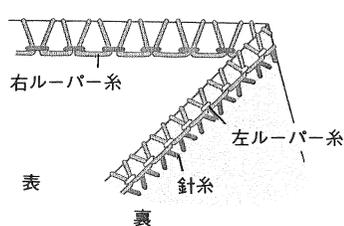
右ルーパー糸調子ダイヤル（オレンジ）を（+）方向へ回す。

#### ② 左ルーパー糸が弱い場合



左ルーパー糸調子ダイヤル（イエロー）を（+）方向へ回す。または、右ルーパー糸調子ダイヤル（オレンジ）を（-）方向へ回す。

#### ③ 針糸が弱い場合



針糸調子ダイヤル（ブルー）を（+）方向へ回す。または、右ルーパー糸調子ダイヤル（オレンジ）、左ルーパー糸調子ダイヤル（イエロー）を（-）方向へ回す。

試し縫いに使用する布地は作品と同じ布地をご使用ください。

## 12. 差動送り

(14U822B)

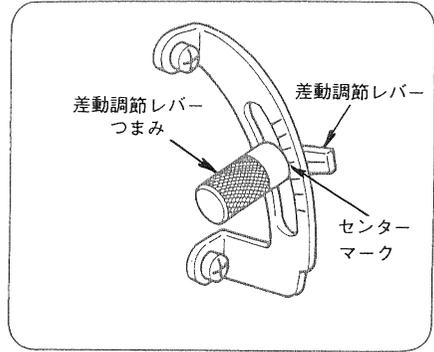
### 1) 差動送り

差動送りは、後の送り歯の送り量に対し手前の送り歯の送り量を変えることで生地を伸ばしたり縮めたりしながら縫えます。普通ロックではかがりにくい、バイヤス地や縫い伸びの出やすい生地を美しく縫い上げるのに効果があります。

(差動比1:0.77~1:2.0)

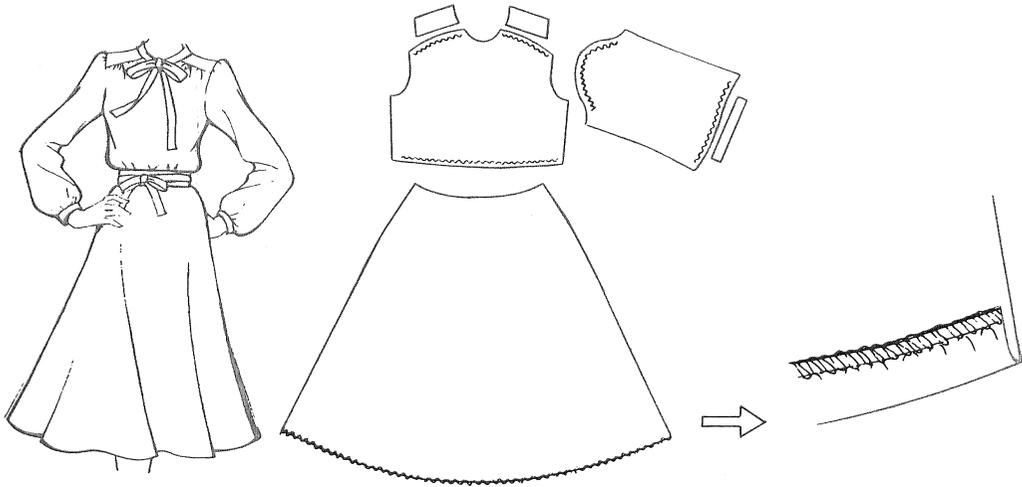
- 2) ルーパーカバーを開きますと右端に**差動調節レバー**があります。

差動送りの使い方と応用縫いとして次のギャザーロック、ストレッチロック、フリルロックがあります。



### ● ギャザーロック 差動送りの応用縫い。(普通針板使用)

- 1) 用途：袖山、肩、スカートの裾等のいせこみかがり。

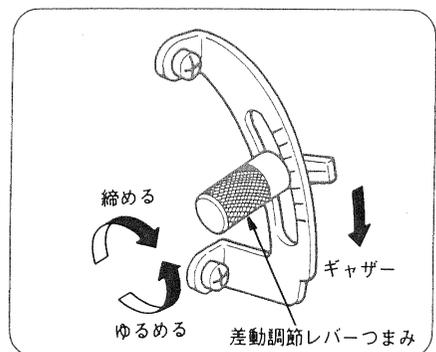


- 2) 適した材料：ニット、ジャージなど伸縮性のあるもの。その他一般服地など。

### 3) レバーの合わせ方

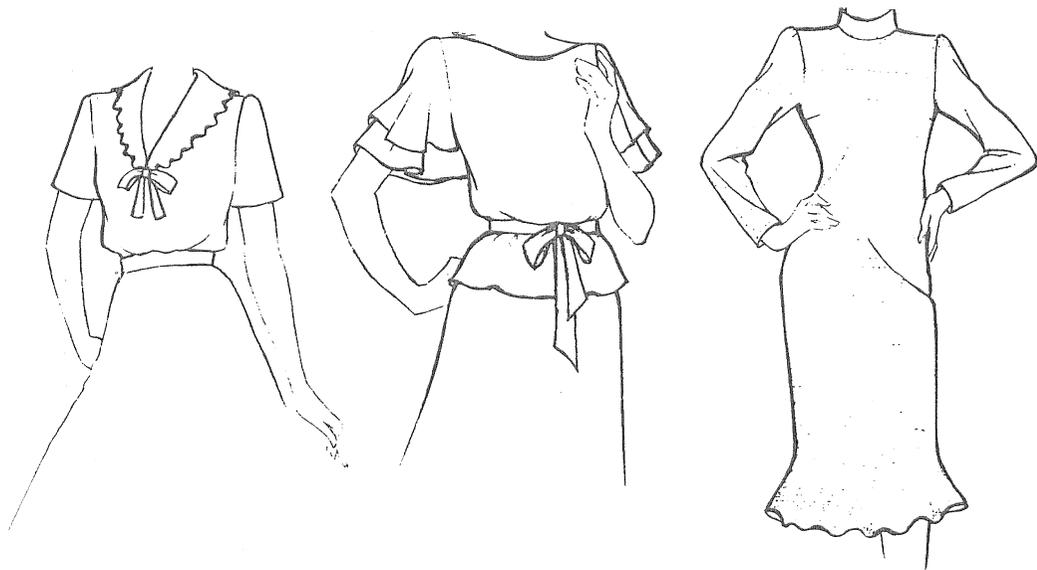
ルーパーカバーを開き、右側にある**差動調節レバーつまみ**をゆるめ、センターマーク位置より下にレバーをセットしてレバーつまみを締めます。位置は素材やいせこみ（ギャザー）量によって異なります。送り調節が“3”以上の位置にあるとき、**差動調節レバー**を最大のギャザー位置にセットしますと、**送り調節ダイヤル**は自動的に“3”の位置に戻ります。

※普通の縁かがりに戻すときは、**差動調節レバー**をセンターマーク位置にセットしてください。



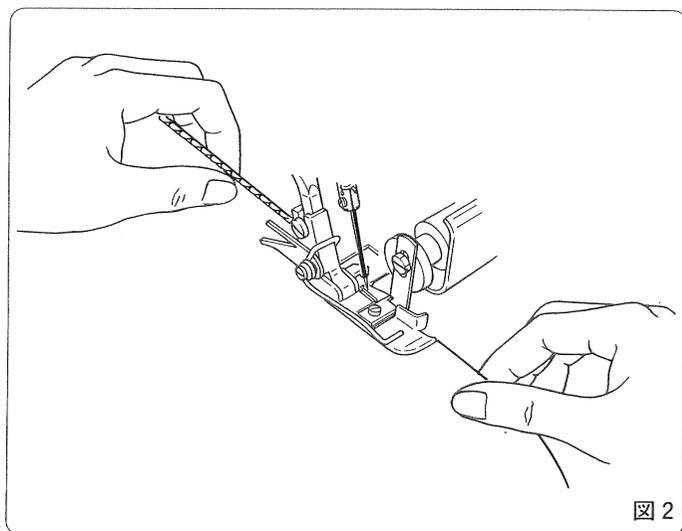
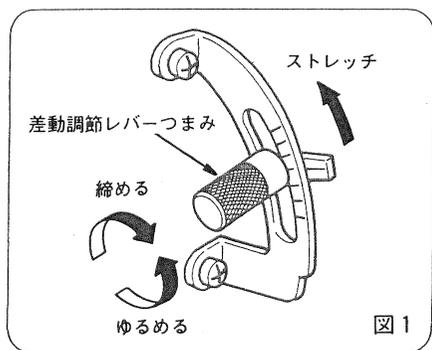
●ストレッチロック 差動送りの応用縫い。(普通針板又は巻きロック針板使用)

1) 用途：伸縮性のある布地の飾り布、袖口、スカートの裾など



2) レバーの合わせ方

ルーパーカバーを開き、右側にある**差動調節レバーつまみ**をゆるめ、レバーをセンターマーク位置より上にセットしてつまみを締めます。(図1)



3) 縫い方は、手前の布を軽く押え、後に引くようにしますとより美しく縫い上ります。(図2)

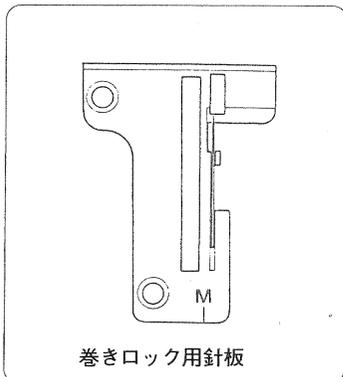
4) 布端の上に縫い目がかからない時は、素材にストレッチ量が合っていないので**差動調節レバー**をセンターマークに近づけてください。

※普通の縁かがりに戻すときは、差動調節レバーをセンターマーク位置にセットしてください。

●フリルロック 差動送りストレッチロックの応用縫い。(巻きロック針板使用)

用途：飾り布 (フリル)

縫う前の準備：



- ①巻きロック用針板に交換します。
- ②糸調子を合わせます。
- ③送り調節ダイヤルを2～Fマークに合わせます。
- ④差動送り量をストレッチの範囲で選びます。

巻きロック、ストレッチロックの説明を参照してください。

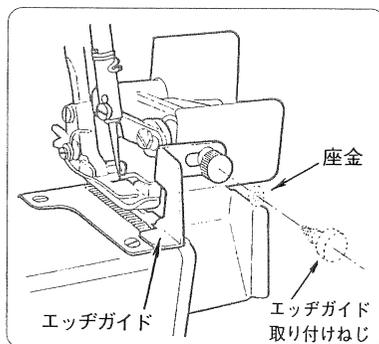
※普通の縁かがりに戻すときは、差動調節レバーをセンターマーク位置にセットしてください。

## 13. バリエーションステッチ

### エッジガイド

飾りステッチ、ブラインドステッチ、ピンタック縫い等にお使ください。

エッジガイドは図のように取り付けてください。



### ●まつり縫い (ブラインドステッチ)

布地の表に縫い目が見えないように縫う方法です。

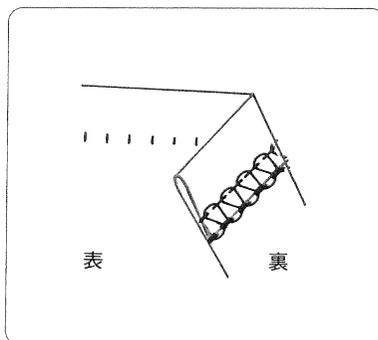
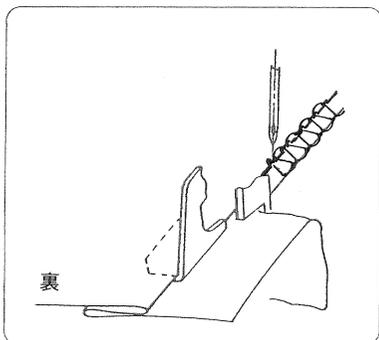
ニット地の袖口、スカートの裾などの折り返しに最適です。

縫う前の準備

布地	ニット地
針板	普通縁かがり用針板
糸調子	標準の縫い目に調子を合せ (10ページ参照)

- 針糸 (ブルー) を (-) 方向へ1目盛り位回します
- 左ルーパー糸 (イエロー) を (+) 方向へ2目盛り位回します
- 右ルーパー糸 (オレンジ) を (-) 方向へ1目盛り位回します

送り調節ダイヤル 4～5



3枚重ねのように折った布地の折り山を、エッジガイドに当て、針がわずかに折り山を刺すようにエッジガイドの位置を調節してください。

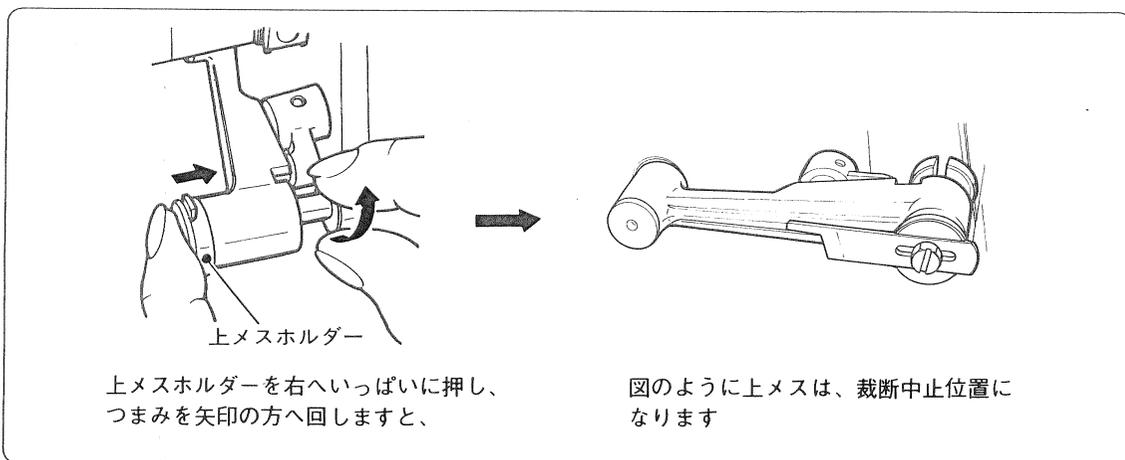
## ●飾りステッチ

いろいろな装飾に使います。

縫う前の準備

針板は普通縁かがり用針板

1. ルーパーカバーを開きます。(5ページ参照)
2. はずみ車を手前に回し、上メスを最下点にして、上メスを下図のように、裁断中止位置にします。



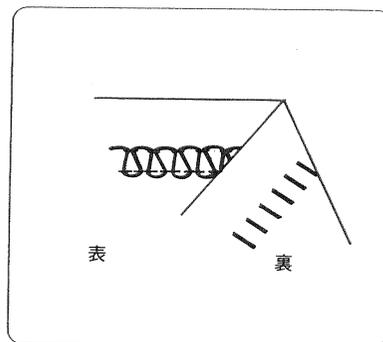
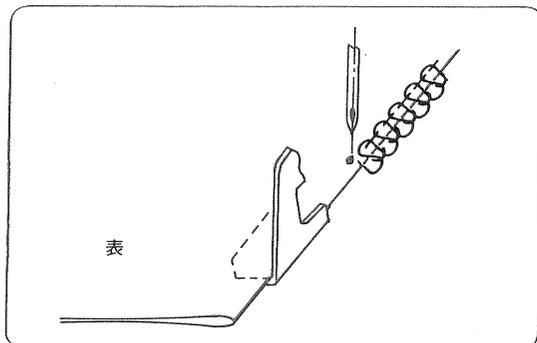
### 4. 標準の縫い目より

- 針糸 (ブルー) を (-) 方向へ1目盛り位回します。
- 右ルーパー糸 (オレンジ) を (-) 方向へ1~2目盛り位回します。
- 左ルーパー糸 (イエロー) を (+) 方向へ2目盛り位回します。

布地は外表に2つ折りで縫います。

折り山をエッジガイドに当て、糸が半分浮くようにガイドの位置を調節してください。

縫い終わりましたら、布を広げ裏面から、軽くアイロンで仕上げます。

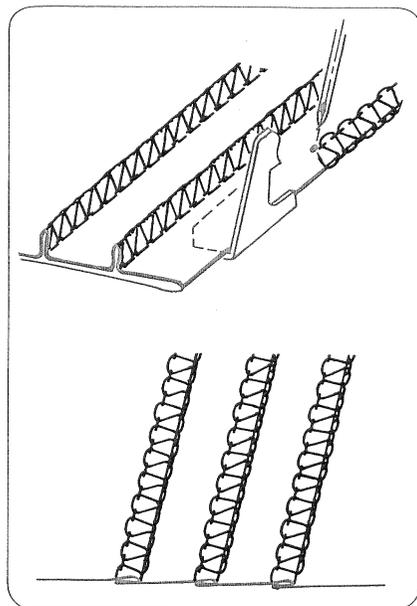


## ●ピンタック縫い

子供服、ブラウス等に使います。

### 縫う前の準備

- 上メスを裁断中止位置にします。(21ページ参照)
- 糸調子は、普通縁かがり又は、巻きロックと同じ。  
(10ページ参照)
- 布地は外表に2つ折りで。
- 折り山をエッチガイドに当てて縫い
- 縫い終わりましたら、片側にアイロンで倒し仕上げます。



## ●ゴムシャーリング

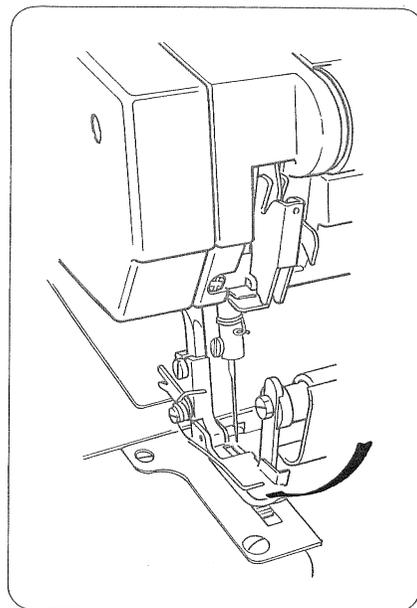
### 縫う前の準備

針板は普通縁かがり用針板。

差動調節レバーはセンターマーク位置より下（ギャザー）にセット。(18ページ参照、(14U822))

押え金の穴に上からゴムテープを通し

ギャザーを寄せる布地を下にゴムテープと重ねて縫うと、ゴムシャーリングができます。



## ●空環ブレード

ロックの空縫いを利用して紐をつくりましょう。

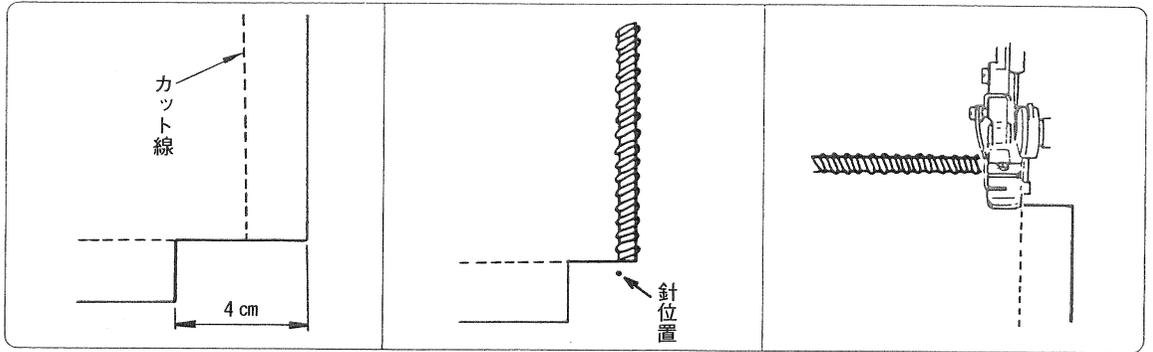
三つ編・四つ編にして組紐もつくれます。

上メスを裁断中止位置にします。(21ページ参照)

押え金の穴に毛糸やテープ等を通し芯にして、

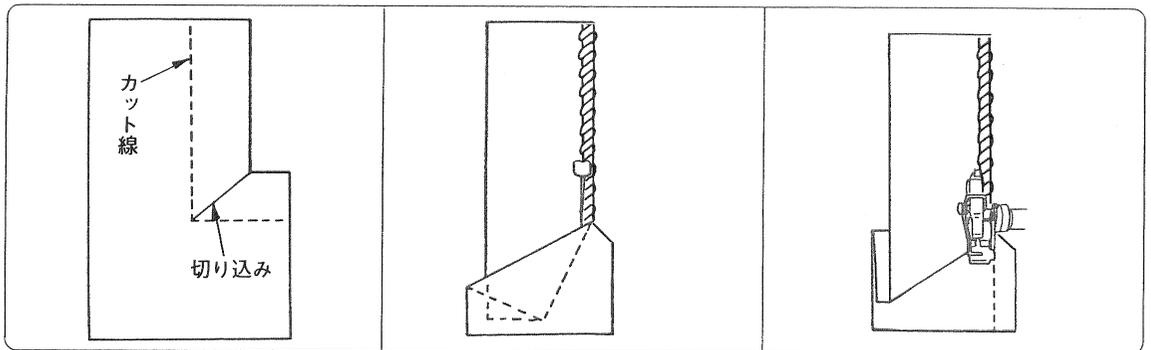
芯を両手で引きながら空縫いをします。

## ● 外角縫い



- ①角を4 cm ぐらい縫いあがり線にそってカットします。
- ②布地端より1針外側まで縫ってミシンを止めます。
- ③針と押え金を上にあげます。
- ④布を後に引いて、針板の爪にからんでいる糸をはずします。(布を引きすぎないように注意してください。)
- ⑤布をまわして、押え金の爪先が布端に合う位置に押え金をおろします。
- ⑥指で針糸を上を引きあげてから縫い出します。

## ● 内角縫い



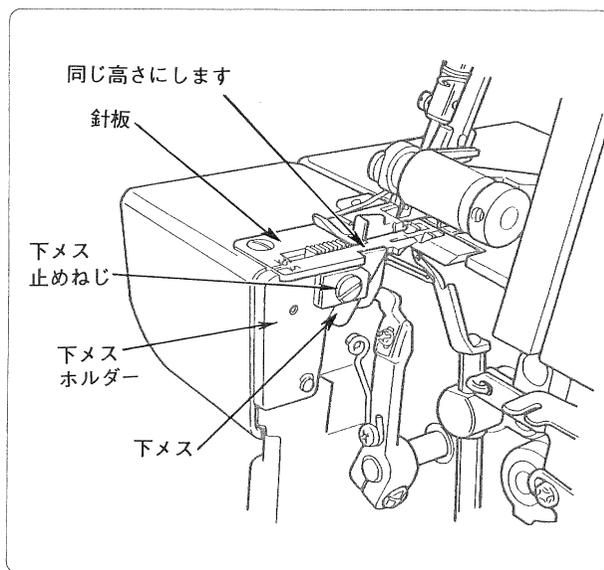
- ①縫いあがり線迄、切り込みを入れます。
- ②カット線に合わせて縫います。
- ③針を対角線折山下側きわで止める。(針は布地に刺しておく)
- ④押え金を上にあげる。(針に刺したまま)
- ⑤折りたたんだ布を開いてかがり線が直線になるようにたたみ直してから縫い出します。

## 14. メスの交換の仕方

下メスが切れなくなったら交換してください。

下メスの交換は、下記の要領でできますが、わかりにくい場合は、お買い上げの販売店等に依頼してください。

1. はじめに必ず電源プラグを抜いてください。
2. ルーパーカバーを開き、上メスを裁断中止位置にします。(21ページ参照)
3. 下メス止めねじをゆるめ、下メスをはずします。
4. 新しい下メスを下メスホルダーの溝に入れ、刃先を針板上面と同じ高さに合わせて、下メス止めねじを締めます。
5. 上メスをもとの位置にもどします。



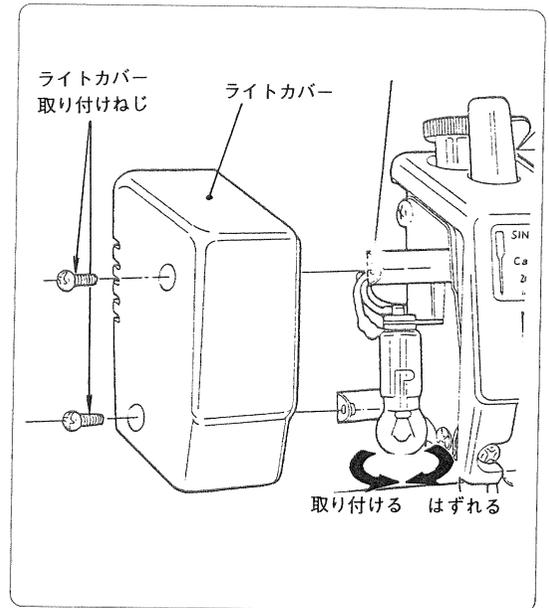
## 15. 電球の取りかえ方

電球を取りかえる前に必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。

図のように、ライトカバーをはずし、電球を左に回してはずします。

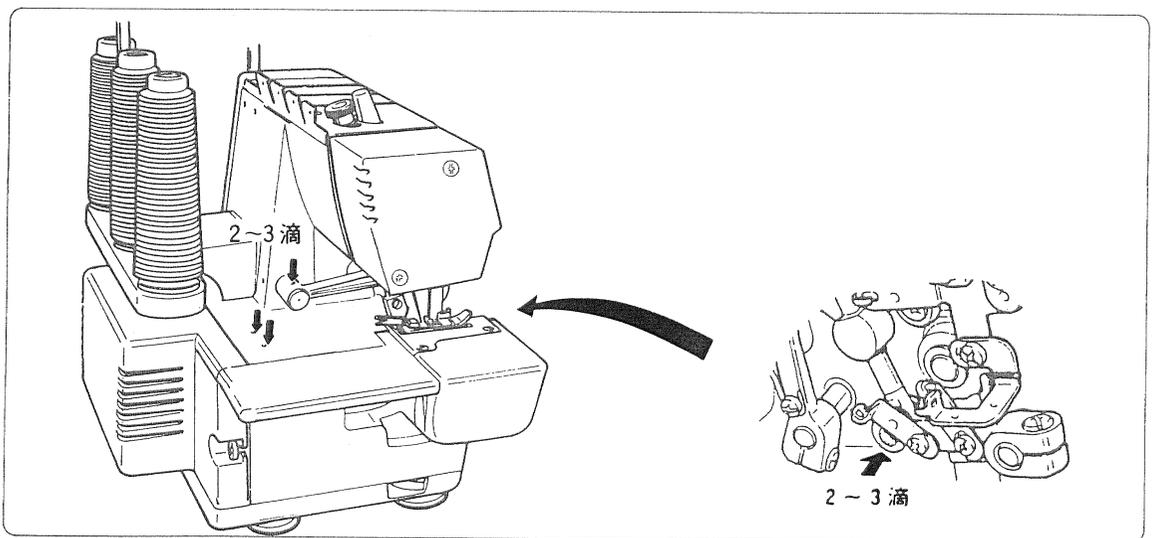
取り付けは、電球をソケットに押し込み、右に回してください。

- 電球は、ご購入店又はガソリンスタンド、カーショップ等でお求めになれます。その際は、古い電球をお持ちになり、同一の電球（12V 6W）とご指定ください。



## 16. 注 油

このミシンの大切な部分には、特殊な材料を使用しておりますので、注油の必要はありませんが、下図に示した個所には、定期的に注油してください。



## 17. 調子よく縫えない原因とその調整の仕方

次のような状態になりましたら、必要に応じて下記の調整をしてください。

状 態	原 因	調整のしかた (参照ページ)
布地を送らないのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 押えの圧力が弱すぎるとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 押え圧力を強くします (13ページ)</li> </ul>
針が折れるのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 針の取りつけが悪かったり、曲った針を使用したとき</li> <li>• 布地を無理にひっぱったとき</li> <li>• 針止めねじがゆるんでいるとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 針を正しく取りつけるか、または正しい針と取りかえます (13ページ)</li> <li>• 手は布地が曲らないよう導くだけ</li> <li>• ねじをしっかり締めます</li> </ul>
糸が切れるのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 糸の通し方がちがっているとき</li> <li>• 針が曲っていたり、先端がつぶれているとき</li> <li>• 糸調子が強すぎるとき</li> <li>• 糸が必要以外のところからみついているとき</li> <li>• 針の取りつけかたがちがっているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 正しく通します (6ページ)</li> <li>• 正しい針と取りかえます (13ページ)</li> <li>• 調子をとります (10ページ)</li> <li>• 正しく通します (6ページ)</li> <li>• 針を正しく取りつけます (13ページ)</li> </ul>
縫い目がとぶのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 針が曲っていたり、先端がつぶれているとき</li> <li>• 針がしっかり取りつけられていないとき</li> <li>• 糸の通し方がちがっているとき</li> <li>• ちがう針を使用したとき</li> <li>• 押えの圧力が弱いとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 正しい針と取りかえます (13ページ)</li> <li>• しっかり取りつけます (13ページ)</li> <li>• 正しく通します (6ページ)</li> <li>• シンガー Cat.No.2053 #10、#14又はBL×1 #11、#14をご使用ください</li> <li>• 押え圧力を強くします (13ページ)</li> </ul>
縫い目の調子が悪いのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 糸調子が合っていないとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 調子をとります (10ページ)</li> </ul>
布地が縮むのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 送りが布地に合わないとき</li> <li>• 糸調子が強すぎるとき</li> <li>• 糸の通し方がちがっていたり、必要以外のところからみついているとき</li> <li>• かがり巾が布地に合わないとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 調整します (11ページ)</li> <li>• 調子をとります (10ページ)</li> <li>• 正しく通します (6ページ)</li> <li>• 調整します (14ページ)</li> </ul>
ミシンが回らないのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コンセントがはずれているとき</li> <li>• 電源スイッチが入っていないとき</li> <li>• モーターの故障のとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コンセントを差し込んでください</li> <li>• 電源スイッチを入れます</li> <li>• カーボンブラシを交換します</li> </ul>
モーターから雑音が出たり、火花が大きいのは	<ul style="list-style-type: none"> <li>• モーターの故障のとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カーボンブラシを交換します</li> </ul> <p>※カーボンブラシの交換は、お買い上げの販売店に依頼してください</p>

## 18. 布地、糸及び針の関係

布地の種類		糸の種類	針 シンガーCat.No.2053 又はBL×1
薄地	ローン、オーガンジー、 ボイル、ジョーゼット、 ポーラ 等	綿 #100 絹 #100 スパン #80～#90 テトロン #80～#100	#10 #11 (BL×1)
普通地	モスリン、サッカー、 サテン、ギャバン ブロード 等	綿 #60～#80 絹 #50 スパン #60～#80 テトロン #60～#80	#10、#14 #11 (BL×1)
厚地	オックスフォード、デニム ツイード、コール天、 サージ 等	綿 #40～#60 絹 #40～#60 スパン #60～#80 テトロン #50～#80	#14
ニット地	トリコット	スパン #80～#90 テトロン #60～#80	#10 #11 (BL×1) 又は、No.2270-07 (ニット用針)
	ジャージ	スパン #60～#80 テトロン #60～#80 綿 #60～#80	#10 #11 (BL×1) #14 又は、No.2270-07 (ニット用針)
	毛糸編地	スパン #60～#80 テトロン #50～#60 ウーリーナイロン ウーリーテトロン	#14